

グリーンな
栽培体系

該当するものに●を付してください。

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	● 温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

- ・プラスチック肥料の活用によってプラスチック被覆肥料の使用量低減を図りながら、出荷量増加へと繋げていく
- ・ドローンで空撮した水稻生育状況のセンシングデータを活用し、鶏糞を基肥利用する際に、ほ場別の生育状況の変位に対応した可変施肥を行うことで、収量の向上と平準化を目指す。

□:元肥 ●:田植え ×:除草剤、病虫害防除 ▲:中干し ■:収穫

[illegible]

□:元肥 ●:田植え ×:除草剤、病虫害防除 ▲:中干し ■:収穫

[illegible]

●:基肥散布(化成肥料) ▲:田植え ◆:穗肥散布(化成肥料) ◆:収穫

[illegible]

●:基肥散布(鶏糞) ▲:田植え ■:ドローン空撮 ◆:収穫

[illegible]

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	10939	▶ 10939	ひとめぼれ、コシヒカリ、きぬむすめ、星空舞の作付面積
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	6	▶ 70	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	6	▶ 70	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	6	▶ 70	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	プラスチック被覆肥料による施肥	▶ プラスチックレス肥料による施肥	プラスチック被覆肥料の使用量の低減
環境	元肥一発肥料	▶ 鶏糞を活用した施肥	化学肥料使用量の削減
省力	手作業による葉色診断、肥料の動噴散布	▶ ドローンによる生育診断、ブロードキャスターによる施肥	水稻生育状況把握の簡素化・施肥作業の省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	プラスチックレス肥料の使用料（100t）	2	▶ 30	現状の使用量は水稻以外の品目も含む。目指すべき水準は、肥料の窒素成分を20%、全量基肥施肥体系導入面積を作付面積の70%として算出（端数切捨て）。
環境	化学肥料の使用量（Kg）	1,479,834	▶ 1,449,034	県下全域を考慮
省力	施肥作業の時間（時間/10a）	1.00	▶ 0.03	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する

（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

・県内の水稻栽培においてプラスチックレス肥料の利用は少ない。そのため、栽培マニュアルを基に指導会や研修会、イベント等で技術紹介を行い、実施面積の増加に繋げていく。
・ドローンで空撮した水稻生育状況のセンシングデータを活用し、効率良く鶏糞を基肥利用しているほ場はまだ少ない。そのため、栽培マニュアルを基に指導会や研修会、イベント等で技術紹介を行い、普及を図っていく。

関係者の役割

関係者名	JA等	鳥取県 経営支援課農業普及推進室 鳥取県 農業試験場 鳥取県 各農業改良普及所	鳥取県生産振興課	
役割	技術指導（普及所等と随時連携）	技術指導（JA等と随時連携）	事務手続き等	

その他